

<p>【活動名】「いわき市立小中学校における道徳教育の充実を目指した研修の推進」</p>	
<p>解決すべき課題：</p> <p>学校訪問等で道徳の授業を参観すると「価値の一方的な押しつけの授業」「話し合う場が設定されておらず、教師ばかりが話している授業」「生徒がワークシートにずっと記入し続けている授業」「発表会的な授業」などが多く見られた。市内には、道徳を研究している教員はいるが、その研究が全体に浸透されず、道徳の授業に関して抵抗感をもつ教員も少なくない現状である。道徳の互見授業の機会がなかったり、授業後のフィードバックの資料がなかったりしていたために教師自身が自分の授業を見つめ直す機会がなかった。</p> <p>今までの自己の実践が否定されているように感じたり、教科化への抵抗感があったりするなど、学ぼうとする意欲が低く、研修に主体的に参加できない。研修で学んだことが、研修後に学校現場での実践に活かされない現状がある。</p>	
<p>目的や背景：</p> <p>研修の受講者が、「主体的に研修に参加する」ために、研修者それぞれのニーズを把握するとともに、研修者が自ら考え話し合う場において、協働して課題解決に向かえるようにした。</p> <p>研修を受講した後に、「学んだ内容をいかに学校現場での実践に生かすことができるようになるか。」のテーマのもと、研修の運営の改善に努め、研修の終末において必ず「振り返りの場」を設定した。</p>	
<p>活動内容：</p> <p>1 教員が主体的に学べる場としての研修となるために</p> <p>(1) ニーズに寄り添った研修の実施</p> <p>各校の道徳教育の中核を担う道徳主任や道徳推進教師に研修前に各校の課題を把握するためのアンケートを実施し、それを講師と共有することで研修内容が研修者のニーズに合うものとした。【資料1】</p> <p>また、他の道徳に関する研修においても、それぞれの学校の課題を意識しながら講座を開催した。【資料2】</p> <p>(2) 協働的な学びとなるような場の設定</p> <p>研修の中に、協議の場を意図的に位置づけ、思考ツールの活用や協議グループ編成を工夫して実施した。また、研修者が自ら考え、話し合う場をもつことによって、協働して課題解決に向かうようにした。【資料4】</p> <p>共通の話題となる授業をもとにした協議</p> <p>協議の前には、実際に授業を参観したり、中央研修の伝達及び文部科学省の道徳アーカイブを視聴したりするなど、参加者が具体的な事例をもとに話し合うことができるよう工夫した。協議では、授業映像や板書写真などを介することにより、研修者自身のこれまでの実践を踏まえた意見や感想がみられ、主体的に参加する姿が多くなった。【資料6・7】</p> <p>小グループにおけるワールドカフェ方式の活用</p> <p>研修者が主体的に学ぶことができるようにするために、ワールドカフェ方式を活用した。小グループにおけるワールドカフェ方式を取り入れたことにより、特別の教科化の不安や課題を出し合うことが容易になった。さらに、協議する際、円形の段ボールのボード「えんたくん」を用いた。話し合いの視点を明確にするとともに、発言から生まれた「キーワード」をボードに書いていくことで、グループの参加者同士が課題の共有化や目指す方向の焦点化を図ることができた。協議の最後には、「今日の研修をこれからの道徳教育の実践にどう実践にいかすのか」をグループ内で宣言し合う場を設定し、実践にもつなげられるようにした。【資料3】</p> <p>意図的なグループ編成</p> <p>協議を行う際に、各研修者の学校種やライフステージを意図的に組み合わせた。様々な経験をもつ教員が同じグループになることにより、多面的・多角的な意見を出し合うことができるようになり、協議の質を深めたり広げたりすることが可能となった。【資料4】</p>	  
<p>2 研修が実践に結びつくために</p> <p>(1) 授業改善に向けて、自己の授業を振り返ることのできる資料等の活用</p> <p>「感想用紙」における今後の活用に関する観点の設定と意見交流</p> <p>どの研修においても「研修の振り返り」の場を持ち、研修の感想用紙に「本日の研修を各校に持ち帰りどのように活かすか」を考え、記入する欄を設け、それを2～4人で話し合う時間を設けた。そのことによって、その日の研修の理解が深まるとともに、具体的に実践に向けての構想を促進することにつながった。【資料5】</p> <p>授業の映像をもとにした授業の振り返りの場の設定</p> <p>中央研修での映像をもとにした研修は、具体的にとてもわかりやすいものであった。そこで、授業研究の講師やOJTサポートの際には、iPadやタブレットPCで撮影した授業の映像を視聴しながら協議や事後指導等を行った。児童生徒がどの場面でのように考え、議論していたかを振り返ることをとおして指導する内容をわかりやすく伝えることができ、その結果、授業改善へと導くことができた。【資料6】</p>	
<p>活動の成果：【資料7】</p> <p>1 平成27年度の課題を踏まえて28・29年度で取り組んできた結果、研修者のアンケートや感想から、より主体的な学びが生まれたことがわかった。</p> <p>2 道徳の授業のあり方や道徳の評価については、研修の参加者から「イメージ化が図られ、今後の見通しを持つことに有効であった」「子どもの中からわき上がる問いが生まれるような主体的な授業を考えていきたい」等の肯定的な意見が多く見られた。</p>	
<p>アピールポイント（アイデア）：</p> <p>研修を行う際に、「実際にどのように学校現場で活用することができるか」を想定し、研修の各段階において様々な工夫を行ったことにより、意欲的に参加する研修者が増えてきた。</p> <p>研修者が主体的に学ぶことのできるツールを使うことで話し合いも活発になった。</p> <p>授業後すぐに自分自身の行った授業映像を見ることで、自己を客観的に分析することができた。</p>	

【資料】いわき市立小中学校における道徳教育の充実を目指した研修の推進

【資料1】課題を把握するためのアンケート

入力用紙(別紙1)
※4月22日(金)までに、総合教育センター窓口へ電子メールで提出ください。
(別紙1)「道徳主任等研修に係るアンケート」
黄色のセルの部分に入力ください。

今年度6月28日開催予定の道徳主任等研修において、各校が実施している道徳教育の現状について、各校においてより道徳教育が充実するために、各校で道徳教育の充実を図るために、各校の課題などについて、お聞きいたします。そのほか、口の中に直接入力ください。(複数回答可)

I 各校で道徳教育の充実を図るために、各校の課題などについてお聞きいたします。
(複数回答可)

1 「特別の教科 道徳」に向けた内容の改善やその背景について
2 道徳教育全体計画の作成(「別業」を含む)について
3 年間指導計画作成上の留意点や留意点について
4 道徳の評価について
5 道徳の授業の在り方について
6 道徳教育を学校の教育活動全体で行うことについて
7 その他(その他に○をつけた場合は、下の口に入力ください。)

II 各校で道徳教育の充実を図るために、各校の課題などについてお聞きいたします。
(複数回答可)

1 「特別の教科 道徳」に向けた内容の改善やその背景について
2 道徳教育全体計画の作成(「別業」を含む)について
3 年間指導計画作成上の留意点や留意点について
4 道徳の評価について
5 道徳の授業の在り方について
6 道徳教育を学校の教育活動全体で行うことについて
7 その他(その他に○をつけた場合は、下の口に入力ください。)

【資料2】アンケートによる各校の課題

「道徳主任等研修に係るアンケート」集計表

I 各校で道徳教育の充実を図るために、各校の課題などについてお聞きいたします。回答数(複数回答可)
II 各校で道徳教育の充実を図るために、各校の課題などについてお聞きいたします。回答数(複数回答可)

1 「特別の教科 道徳」に向けた内容の改善やその背景について	2 道徳教育全体計画の作成(「別業」を含む)について	3 年間指導計画作成上の留意点や留意点について	4 道徳の評価について	5 道徳の授業の在り方について	6 道徳教育を学校の教育活動全体で行うことについて	7 その他
17	12	8	50	32	2	4

※1 「特別の教科 道徳」に向けた内容の改善やその背景について
※2 道徳教育全体計画の作成(「別業」を含む)について
※3 年間指導計画作成上の留意点や留意点について
※4 道徳の評価について
※5 道徳の授業の在り方について
※6 道徳教育を学校の教育活動全体で行うことについて
※7 その他

【資料3】グループ協議後の円形の段ボールのボード



研修者の感想からワールドカフェ方式で協議を行ったことで、話しやすさが増した。また、自分のグループ以外の意見を聞いたり、見たりできたこともよかった。

【資料4】意図的なグループ編成



キャリアステージの違う研修者を組み合わせることで、教え合い・学び合いの場が生まれた。

【資料5】研修のふり返りのための感想用紙の工夫

今年度の総合教育センターの合い言葉は「扉の向こうに」である。「(4)今後、研修内容をどのように実践に生かすか」について考えることで研修内容をふり返ったり、グループで共有し合ったりする中で、実践化への意欲が高まった。

(4) 今後、研修内容をどのように実践に生かしますか?
問題解決時の授業に実際に参加し、どんな取り組みをしていこうかと具体的にイメージしたので、取り入れたい。

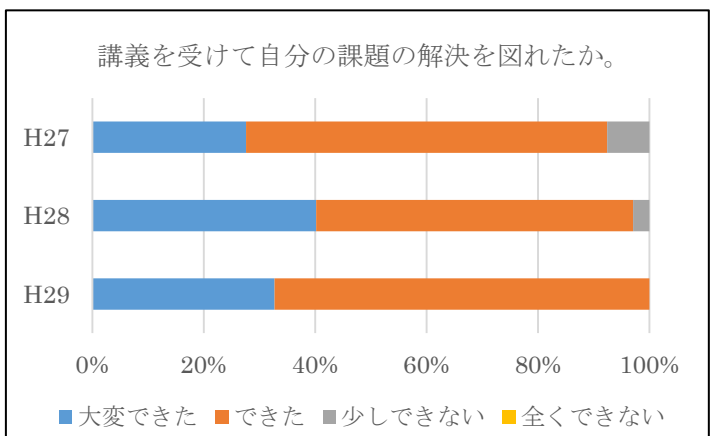
【資料6】OJT サポート

授業の様子を iPad で撮影し、事後研修の際に授業者に提示したり、研修の際に活用したりした。(映像の一部を抜粋) ↓

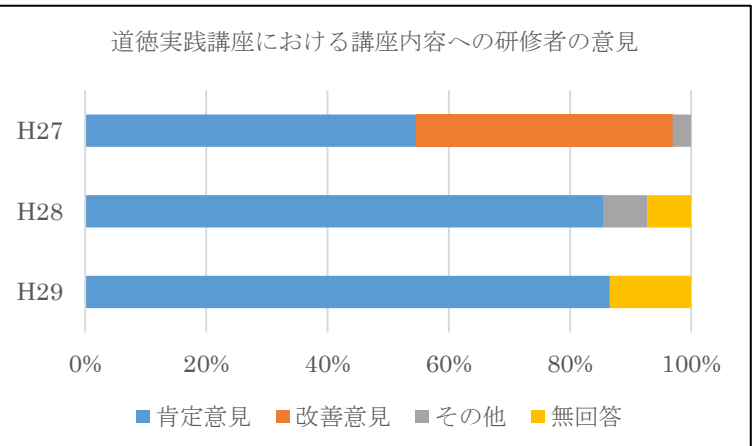


授業映像を活用することは、それを媒体とすることで、共有化が図られ「問題解決型とはどうするのか」「自分事として考えると何か」などの協議をする際に、有効であった。

【資料7】研修の受講者の意識の変容 (平成27年度～平成29年度)



※アンケートの結果から、上記のような取り組みを行ってきたことによって、研修者の肯定意見の割合が高まってきたことが窺える。また、感想・アンケート結果や研修態度からは、主体的に取り組む様子が多く見られるようになった。



※無回答者は、別に感想を提出するためその項目を記入はしない「10年経験者研修対象者」である。